

釣れ釣れなるままに

2009年思い出の釣行記 PART. X

増毛港のホッケ

仲僕釣狂

☆釣行日	平成21年05月05日
☆入釣場所	舎熊→花岡→増毛港
☆天候	晴れ
☆エサ	マグロ エビ 撒き餌 アミピュアー2袋 粉マキエ1袋
☆釣果	ホッケ 380 mm 92

今年のゴールデンウィークは2日（土）から6日（水）までである。

- 2日、岩見沢の自宅に母を迎え、
- 3日、名寄にいる娘の所に陣中見舞いに行った。
- 4日、母をあいの里に送って、
- 5日に釣りを決行した。

2：00に起床し舎熊に向かって車を走らせる。増毛港に寄ってホッケの状況を確認すると、岸壁は隙間が無いほど釣り人で満杯だがほとんど釣れていない。薄明るくなってきたので、サクラマスを狙って舎熊駅前で1時間、朱文別川1時間、小平花岡海岸で2時間ほどルアーを飛ばす。アタリらしきものはない。



花岡では波が結構高かったが、竿の出している所だけ波が穏やかだった。カレイを狙って竿を出す。投げ竿に鈴を付けて放置し、サクラマスを狙ってルアーを引く。的を一つに絞れないのが釣れない原因か・・・。

昼になり増毛港に寄ってみる。バツカンと溪流竿1本をもって歩くと、丁度角の一等地が空いていたのですぐに準備する。3.6m溪流竿にニジマスバリ10号を付けてヨリモドシだけのシンプルな仕掛けで釣り始める。エサはアルゼンチン産有頭エビとマグロを小さく切って使った。それでも周辺のサビキ釣りの人たちと何ら遜色なく釣れてくる。ホッケは30cm程のものが大半で難なく抜き上げることができた。時折来る大型のものは、周辺の仕掛けとオマツリしないようにと、一旦、腕を一杯に伸ばしてサビキ仕掛けの群れから沖の方に出し、頭を浮かせた後に手前に引き寄せて取り込んだ。

15時頃、右隣の釣り人が引き上げた隙間に3名が入りアミを大量に撒き始めてからホッケが湧きだし次々と釣れ続いた。バツカンから溢れてきて打ち止めとする。数えてみると92匹の大漁だった。釣れたホッケは「開き」「煮魚用」「フライ用」に捌き、残ったものは職場に持っていった。



増毛港の様子。私が入釣したのはブルーのクーラーが置いてあるところ。初めのうちはサビキ仕掛けの磯竿との二刀流でホッケを釣っていたが、溪流竿1本にしても釣果は替わらなかった。

角から3～5人目の釣り人がマキエをドンと撒いた。途中でマキエやエサが無くなり一人が買い足しに行つての釣りである。お陰でこちらもそのお零れを頂くことになった。左隣のオレンジのウェアを着た人と一度お祭りしてしまった。エサを付けずグリーンของサビキだけでよい釣果を上げていたのに大変申し訳なく思う。私の持っていた新品のサビキを使ってもらえるように申し出たが、自分の仕掛けを丁寧に解いてそれを最後まで使っていた。